

平成28年3月吉日

関係各位

弥富市立栄南小学校長
伊藤 克仁

平成27年度学校教育活動に関するアンケートの結果について

陽春の候、保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の学校教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本年度も、昨年12月に、栄南小学校をよりよい学校にしていくための大切な資料とさせていただき、「学校教育活動に関するアンケート」をお願いいたしました。その集計と分析ができましたので、下記のようにお知らせします。なお、「学校・家庭生活アンケート（児童）」の集計結果も掲載させていただきました。この集計結果を受けて、よりよい栄南小学校の教育活動のあり方を考え、家庭や地域との連携をさらに進め、保護者の皆様や地域の方々により信頼される学校をめざして努力していきたく思います。今後ともさらなるご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

○学校教育活動等アンケート（保護者）**資料1**、学校・家庭生活アンケート（児童）**資料2**の結果について

- ※ 保護者73名（回答率96%）、児童108名（回答率100%）の集計結果です。
- ※ 表は回答数（人）とその割合（%）、また、肯定的な評価（『ア そう思う』と『イ どちらかといえばそう思う』の合計）の割合と前年度比較を示しています。

【保護者アンケート】

＜回答選択形式より＞

- すべての項目で肯定的評価が80%以上であるとともに、90%以上の項目が30項目中25項目ありました。また、25項目で昨年度よりも肯定的評価の割合が増加したことから、学校の教育活動が保護者の皆様に一定の理解を得ることができたと思われま。今後も、一人一人のよさに目を向け、よさを伸ばす指導を意識して行うとともに、子どもたちを適切に評価し、できたことを一緒に喜び合える関係作りに努めていきたいと思。い。ます。
- ただ、数%程度ですが、5項目において昨年度より肯定的評価の割合が減少しました。No.12の「二人の先生で教えるなどの少人数指導」については、担当の教師が授業前の打合せを密にし、授業においても子どもたちにきめ細かく指導できる体制をより整えていきたいと思。い。ます。また、No.19の「外国語活動」においても、ALTとの連携した授業をより工夫し、子どもたちが楽しく学べるようにしていきたいと思。い。ます。

＜記述形式より＞

本年も記述箇所を設けたところ、いくつかのご指摘、ご意見をいただきました。すべてにお答えすることはできませんが、多かった記述についての学校の考えを伝えます。

- **（運動会）** 種目や内容に関わるご意見をいただきました。本年度は、保護者のご意見もふまえ、新しい種目を取り入れました。それも含めて種目については、肯定的意見と改善を望む意見と両方があり、保護者の方の考えも様々であることがわかりました。
本校では、運動会もスマイル班の活動の場として縦割り活動を行っております。学校行事も子どもたちを成長させる価値あるものですので、今後も保護者の意見も参考にし、運動会のねらいをふまえて、種目や内容を検討していきたいと思。い。ます。
- **（学習発表会）** 子どもたちの成長を感じるところを見たいというご意見をいくつかいただきました。また、撮影スペース設置への感謝のご意見もありました。今後も、配役

決めから練習方法なども職員同士で相談しながら進め、子どもたちが生き生きと発表できるよう努めていきたいと思ひます。

- ・(部活動) 夏休みの練習は、水泳指導や個人懇談、顧問の出張等の状況を見て、練習日程を計画します。児童数も少なく、大会では勝てないこともありますが、今後も勝利至上主義に走ることなく、子どもたちがその種目の楽しさや仲間と力を合わせて活動する素晴らしさを味わえるよう、練習時間を確保していきまひます。

【児童アンケート】

資料2のように、多くの項目で肯定的な評価が80%以上でした。学校の取組や職員の姿勢が子どもたちに一定程度伝わっていると思ひます。しかし、昨年度よりも肯定的評価の割合が減少している項目もあります。そこで、肯定的な評価が70%未満の項目、昨年度よりも肯定的評価の割合が大きく減少した項目を中心に詳しく見ていきまひました。

【項目4】

「担任の先生の授業は楽しい」 83.3% (H26 93.3%)

【項目7】

「道徳の時間を楽しみにしている。」 69.4% (H26 76.0%)

昨年度まで、心の教育の充実のため道徳を研究領域として取り組んできまひましたが、本年度からは、研究テーマを生徒指導・人権教育の領域としています。道徳の時間を軽視しているわけではありまひませんが、道徳の指導内容が子どもたちの心に染み渡っていない様子がありました。道徳は自分の行動を深く考える授業で、楽しいことばかりではありまひませんが、子どもたちが道徳的価値をつかみ、実践する態度が身につくよう、今後も学校の教育活動全体を通じて道徳教育に取り組んでいきまひます。

また、授業では、教材研究を熱心に行い、子どもたちの反応も予想しながら指導方法を工夫することによって、子どもたちがわかって楽しい、また、やりたいと思えるような授業作りに努めていきまひたいと思ひます。

【項目15】

「部活動は楽しい」 80.0% (H26 95.7%)

【項目43】

「携帯電話やインターネットを使うときに気をつけなければ
ならないことを知っている」 78.6% (H26 96.6%)

部活動については、肯定的割合の減少の理由は定かではありまひません。練習の様子を見たり聞いたりしていると、楽しくやっている子も多くいまひますが、大会で勝てないことも肯定的評価の割合が減少した一つの要因として考えられます。前述したように、児童数も少なく、大会では勝てないこともありますが、子どもたちがその種目の楽しさを味わえるよう、練習内容も工夫していきまひたいと思ひます。

情報モラルについては、インターネットが普及し、子どもたちもたくさん携わっている中では重要な指導内容と理解しています。今後もPC担当の職員と指導内容を吟味し子どもたちに伝えていくとともに、専門の講師の方を招いて子どもたちが学ぶ場を設定していきまひたいと思ひます。

また、項目34「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思ひ」では、ほとんどの子どもが肯定的に回答しました。しかし、いけないとわかっていても「いじめられている」と感じてしまったり、「自分はいじめているつもりはなかつた」という状況が出てくることがあります。子どもたちの小さなサインを見逃すことのないよう、全職員で全校の子どもたちを見守るといふ姿勢で今後も子どもたちに接していきまひます。